| | |
|---|---|
| 事例No. | 3237 |
| 公表年度 | R6 |
| 団体の属性 | 都道府県 |
| 団体名 | 福井県 |

| | |
|---|---|
| 事例区分 | 行政改革 |

| | |
|---|---|
| タグ | ・人材確保・育成<br>・組織改革 |

| | |
|---|---|
| 事例種類 | 人材確保・育成 |

事例内容・タイトル

福井県における土木職の確保に向けたＰＲ戦略

出典

地方公務員月報2024年11月号（グラビア）

# 福井県における土木職の確保に向けたＰＲ戦略

福井県土木部政策推進グループ

## 1. はじめに

福井県では、平成十六年度から土木職、農業土木職を土木（総合）職として採用しています。受験者数は年々減少しており、ここ数年は募集人員に対して採用予定者が確保できない、いわゆる定員割れとなっています。

一方、激甚化・頻発化する自然災害への対応、老朽化するインフラの維持管理、時代のニーズを取り入れたインフラ整備など、土木職の重要性はますます高まっており、また技術力を継承していくには土木職の確保・育成が急務となっています。

本稿では、福井県が取り組む土木職のＰＲ戦略や試験制度の特徴について紹介させていただきます。

## 2.「土木職ＰＲアニメ」の制作（きっかけづくり）

土木職の確保に向けて、まずは土木職の仕事の魅力を広く知ってもらうことが重要だと考え、土木職のＰＲに向けた職員有志によるプロジェクトが始動しました。その取組みの一環として、県内の学生にアンケートを実施したところ、驚くことに八割を超える学生が、「土木職の仕事内容を知らない」と回答する結果となりました。そこで、本県で令和二年度に創設された、職員有志が知事に直接政策を提案する「チャレンジ政策提案」制度を利用し、まずは学生に土木職の仕事を身近に感じてもらうための仕掛けとして、気軽に楽しめる土木職のＰＲアニメを制作する事業を提案し、事業化しました。このアニメ制作を進めるにあたり、職員のほか、県内の大学や高専の学生、一般社団法人福井県建設業協会、クリエイターの方など外部の様々な方々にも参画いただき、「マジで土木最高！プロジェクトチーム」を設立しました。プロジェクトチームでは、令和三年九月から約半年にわたり計三回の会議を行い、その中でいただいたシナリオやデザイン、プロモーション等に関する意見を参考に、土木職ＰＲアニメ「マジで語り出すマチ・ふくい」を完成させることができました。このアニメは、一話が約五分、計三話の構成で、学生に当事者視点で共感してもらうため、土木職のことを何も知らない女子大学生を主人公に、現場を回って土木の仕事への理解を深めていくシナリオとしているほか、アニメならではの自由度の高い表現を最大限活かし、音楽に乗せてダムや橋梁といった各インフラを妖精として登場させるなど、楽しく最後まで見ることができる内容としています。このアニメは、土木部のＹｏｕＴｕｂｅで公開しているほか、地元メディアや道の駅などでも放映され、最近の新採用職員の中には、アニメを試聴したという職員が見られるなど、土木職の魅力発信ツールの一つとして定着しつつあります。また、小学生をはじめ、未来の土木職を担う層にも、出前講座等で当該アニメを放映し、好評を得ています。土木部のＹｏｕＴ

uｂｅチャンネルでは、他にも県が手掛ける道路や港湾、ダム、空港などのインフラの魅力や職員の仕事風景等を発信しています。

### 3．実際に働く「現場」の魅力発信（土木ファンづくり）

福井県では、採用広報の一環として、土木職として働くことに興味がある学生・社会人等を対象にした「土木職の仕事見学バスツアー」を開催しており、工事現場の見学会や若手職員との交流機会を作ることで、より詳しく土木職の仕事に触れてもらう機会を作っています。また、主に大学生を対象としたインターンシップでは、これまでの一週間の受け入れプログラムに加え、より深く、土木行政の実践的な仕事に触れてもらう機会を設けるため、約三週間に渡る「有償インターンシップ」を令和六年度から新たに開始しました。参加した学生からは、課題解決の視点から、土木行政の役割をリアルに学ぶことができたと、好評の声をいただきました。

この他、令和六年度からは、職種問わず採用広報全般を専属的に担う職員が「人財発掘ディレクター」として置かれ、同ディレクターの下、部局横断的な「人財発掘チーム」が結成されました。土木部では、このチームに参画している土木職の若手職員を中心に、土木職の現場（＝職場）の魅力を知ってもらう取組みとして、職員の一日の仕事風景や仕事に対する想いなどをテーマにしたＳＮＳ「ドはドボクのド」を立ち上げ、Ｉｎｓｔａｇｒａｍをはじめ様々な媒体で展開しています。また、土木職の作業服リニューアルなど、若者ならではの視点から土木職のイメージアップに向けた取組みを進めています。

### 4．多様な人材が「チャレンジできる」採用試験制度

これまで様々な土木職のＰＲ戦略をご紹介しましたが、福井県では、これらの取組みにより様々な層の方々に土木職の仕事に関心をもってもらうとともに、それらの方々がそれぞれの強みを活かして採用試験にチャレンジできるよう、試験




土木職PRアニメ（マジで語りだすマチ・ふくい）

制度の充実を図っています。

具体的には、一次試験で教養試験と専門試験を実施し、八月に最終合格発表を行う「通常募集」に加え、令和五年度には、通常募集より約一か月半前倒しの日程で試験を実施し、六月に最終合格発表を行う「技術先行枠」を新設しました。技術先行枠では、一次試験で民間企業の採用試験でも利用されている「ＳＰＩ３」をテストセンター方式で実施することにより、オンラインで自宅等から受験できるほか、自身のこれまで修得してきた専門的知識をアピールする「専門性確認シート選考」により一次試験を実施するため、特別な公務員試験対策をしていない方や、県外在住の方でも受験しやすい試験としています。また、中途採用試験として、県外で一定年数の職務経験を有する方を対象とした「移住・定住促進枠」試験や、結婚・育児・介護等の家庭事情、キャリアアップのための転職、企業等で福井県を退職した方を対象に実施する「カムバック採用」試験も運用しており、新卒者をはじめとする若手人材から職務経験者まで、幅広い層が自身のキャリアやライフステージに合わせて試験にチャレンジできるよう、試験制度を充実させ、多様な人材の確保に努めています。

## 5. おわりに

近年、土木職の確保は全国的な課題となっています。土木職の人材確保に向け、まずは土木職の魅力に触れるきっかけづくりのため、アニメ制作を行いました。そして、より深く土木職の仕事に興味を持ってもらうため、インターンシップやバスツアー、ＳＮＳによる情報発信に力を入れ、採用試験の受験者確保に努めており、これらの取組みを明確なビジョンを持って進めていくことが重要であると考えています。今後も、土木職の魅力を分かりやすく、視覚的に伝えるＰＲ戦略をはじめ、福井県の土木行政に関心をもってもらえるような採用広報に力を入れていくことで、福井県のインフラの未来を支える人材の確保に努めていきたいと考えています。




福井県公式SNS「ドはドボクのド」